評価結果報告書
「ダイヤモンド電極の物質科学と応用展開」

総合評価

ACCEL での研究開発推進は適切である。

研究代表者は、世界初のダイヤモンド電極搭載センサーの実用化を実現しており、ダイヤモンド電極の新たな展開として、有用物質の創製など様々な有用な現象を捉えている。世界をリードする成果を輩出し学術的にも産業界においても関心が高い。特に、これまでの電気化学では生成できなかった有用物質が、ダイヤモンド電極を用いた温和な環境下で生成可能であることを示したことは特筆すべき成果であり、ダイヤモンド電極が持つ高いポテンシャルを明らかにしてきている。その独創的な研究成果に基づき、今後様々な応用展開が期待できる。

PM を中心とした戦略的な知的財産戦略の立案・権利化の推進に加え、企業からのニーズを積極的に取り込み、市場動向を見据えたビジネスモデルの構築を行うことが今後重要である。

平成 26 年 12 月 15 日
研究開発運営委員会　委員長
東京大学　理事・副学長
松本　洋一郎